

御時計役御坊主
御土圭間御坊主

御大鼓坊主

時鐘役

二丁 湯川久甫ゆしよこ大前田了圓たの大竹三悅い津田玄哲あざぶ澀谷李三た坂下谷車永

井清覺め芥川俊盛
御時計役御坊主門四谷左森谷勇齋略中
御土圭間御坊主下谷三村尾榮碩略下

〔明良帶録世職〕御太鼓坊主略中

何れも世職の場なれば、事に馴れたるもの同寮を歴昇す、その働を第一として、用の辨するを肝要とす、

〔撰要集起立之部〕本石町時鐘役起立

一本石町三丁目時御鐘役直次郎先祖蓮宗と申者、南都興福寺之喝食ニ而、權現様三州ニ被爲遊御座候刻、御謠初之御島臺作り花奉獻上候處、御感之上、御當地ニ而相應成役儀可奉願旨、大久保相模守様被仰渡候、依之時之太鼓役奉願、明ケ六ツ、暮六ツ、兩時相勤申候處、台徳院様御代、鐘ニ而十二時被爲仰出、新規鐘被爲仰付、右御鐘役相勤申候、其後度々類焼等之節は、御鑄直被爲仰付候鐘役、錢之儀は、御武家方よりは受取不申、町方計ニ而、壹軒役に付、壹ケ月永樂錢壹文宛被仰付、西は飯田町より、麴町十三丁目迄、東は淺草三吉町迄、南は芝濱松町四丁目迄、北は本郷六丁目迄、新吉原五丁分、總町數三百町より、鐘役錢受取來候處、右町々之間に、追々新規町屋出來致候に付、元祿十三辰年二月廿九日、右新町屋より、役錢受取度段奉願候處、同十六未年三月中、願之通被仰付、新町屋百拾町相増、都合四百拾町より、鐘役錢受取來申候、鐘樓堂之儀は、古來より、本石町三丁目直次郎先祖調屋敷之内に、御普請有之候處、同人屋敷裏に、貳拾間四方之會所明地御座候故、右會所地中に鐘樓土藏造に被成下候様、元祿十三辰年七月中奉願上、御普請被仰付候處、寶永三戌年、右町内北側地尻新道御明ケ被爲遊候、同年四月中、右鐘樓地、表間口田